

輝いている人を紹介します

まちのキラリ

ひらい かずき
平井 一規 さん(保原地域出身)

全国大会など数々の大会に出場し、活躍し続けている平井さん。止まるところを知らないスキーへの情熱と、両親への感謝の思いを胸に、今日も真っ白なゲレンデを颯爽と滑り抜ける。



開かれたスキーへの扉

僕とスキーとの出会いは5歳の時でした。父が指導員の資格を持っていて、気づいたらスキー場で滑り始めていました。僕の名前は、生まれた当時、日本を代表する選手だった渡辺一樹さんから取り、命名したと聞いています。

全国大会に出場して感じたこと

これまで、福島県代表選手として全日本スキー技術選手権大会に4回出場しました。全国大会に行って成績を残すには、強靱なメンタルと、長くて荒れたバーン^{*}を確実に滑り切る高度な技術が求められます。自分に足りないものがまだまだであると痛感する全国大会になりました。

格別の気持ちよさ！スキーの魅力

スキーの楽しさは、スピード感あふれる滑走の気持ち良さにあります。晴天であれば、とても爽快ですし、腰まで埋まりそうなパウダースノーを滑ると、体が宙に浮くような浮遊感を味わうことができ、その気持ちよさは格別です。

^{*}バーン…滑る斜面のこと

リフト乗車中も上手な人の滑りを観察し、「あんな風に滑りたい」と思う気持ちがスキーの楽しさとなり、さらに魅了されます。

あふれ出す、両親への感謝

両親を尊敬し感謝しています。父のおかげでスキーを始められましたし、今も父に指導してもらっています。僕が初めて全国大会に出場したときは、自分のことのように喜んでくれました。父が若いころ目標としていた大会に僕が出たことで、また違った喜びがあったようです。母はどんな時でも僕を支え、応援してくれます。

スキー技術を向上させ、大会で勝ち、両親に喜んでもらう事が親孝行の一つであり、練習へのモチベーションにつながっています。



Profile ●ひらい かずき

伊達市保原町出身。32歳。スキー歴27年。準指導員、テクニカルプライズの資格をもち、現在は岩手県安比高原スキー場のスキースクール常勤インストラクターとして、スキー技術の向上とスキーの楽しさを伝える活動に励んでいる。

今の自分を作ってくれた存在

スキーは、僕にとってはなくてはならないかけがえのないものです。これまでさまざまな人との出会いをもたらしてくれました。だからこそ今の僕があります。辛い事も沢山ありましたが、スキーに向かい合うことで、成長できたと思いますし、その全てが自分の糧になっていると感じています。



スキースクールで指導する平井さん(写真左)。「多くの人にスキーの楽しさを体験してほしい。」と話してくれた。